

2010年10月8日

会員・関係 各位

特定非営利活動法人 KHJ 香川県オリーブの会

連絡先 TEL・FAX 087-843-9877 (川井)

ホームページ <http://khj-olive.com/>



朝晩とめっきり涼しくなり、過ごしやすい季節になりました。外の空気に触れて気分転換を図ってみてはいかがでしょうか？

10月の月例会を下記の通り開催いたしますのでご案内申し上げます。

第100回月例会ご案内

1) 日時 10月24日(日)

13:00~13:30 受付

13:30~13:40 報告・連絡

13:40~15:00 <<ひきこもり回復プログラム 3>>

テーマ「無言の子への働きかけ」

体験談をとおして考える

鳴門教育大学院生 海面 敬 氏

発表後 みんなで話し合いたいと思います。

15:00~15:15 休憩

15:15~16:30 (1)「ひきこもりだった若者が働ける場所作り 他」

(四国ブロック会議から)

(2)「障がい者制度への加入は何故必須か？」

(全代研「東京大会」全体会討議テーマ)

*各自ご意見などお持ちより下さい。

2) 場所 **香川県社会福祉総合センター 6階** 研修室

TEL 087-835-3334 県庁の斜め向い

3) 参加費 会員：1家族 **1000円** 非会員：1家族 **1500円**

【今後の月例会】

- 11月28日(日) まなびCAN (高松市、琴電片原町駅近く) (13:30~16:30)
- 12月19日(日) 香川県社会福祉総合センター 6F (13:30~16:30)

【第100回月例会開催にあたって】

第1回月例会 2002年7/28開催から100回を迎えました。また自分自身が苦しみを抱えているうえに、周囲の偏見や本人が回復すると遠退いていくという当会の宿命等もあり、活動出来る方が限られたなか、現在まで何とか継続できましたことは、会員の方はもとより、関係機関、理解ある支援者の方々、KHJ各支部、そして身体障害者であり、現在3種類目の癌と闘っている本部の奥山代表のご支援ご指導の賜物と心より感謝申し上げる次第です。(川井)

そこで他の役員の方にも100回月例会開催にあたり、急遽記念コメントをお願いしました。

- ・『第1回が2002年7月。それから8年余り(私は第23回からの参加ですが。)途切れず毎月続いてきたことを思うと改めて驚きと感激。例会は親にとって必要なもの。これからも同様に関係者皆さんの努力によって大切にして行って下さることを願います。』(堀井)
 - ・『今でも新聞にひきこもりの親の会ができた。という記事が載っていた感激は忘れません。沢山の苦しみの中で唯一の希望でした。これからも会員皆さんの支えのもと、さらに発展していくことを願ってやみません。』(石田)
 - ・『常にうつになりそうな自分自身を、オリーブの会の月例会に参加して何度も助けてもらいました。これからもお世話になりますが、よろしく願います。』(長尾)
 - ・『オリーブの会に参加して、会員の方の体験や専門家の方のお話をお聞きできたことは大変参考になり、助かりました。これからもよろしく願います。』(大原)
 - ・『第100回月例会といえば毎月開催されて8年余りの月日が過ぎました。この間、オリーブの会や私的なことで色々な事がありました。変わったこと、変わらないことをあらためて思います。そしてこの会に集うすべての人が幸せになり、この会が尚発展することを願っています。』(加藤)
 - ・『平成14年(2002年)7月開催のKHJ香川県親の会を第1回として、今月で記念すべき100回!該当する子供が二人居た為か副会長、以来8年間名前だけの役職で過ごさざるを得なかった父親自身の心の病との葛藤の8年間であった事も確かです。やっと夫婦で子供に向き合えそうです。第116回例会の頃(私が70歳)までには会員の皆様と共に力を併せ、明るい展望の時を迎えたい。』(里)
 - ・『「継続は力なり」途切れることなく続いている事に驚いています。感謝感謝です。これからも、よろしく願います。』(本倉)
 - ・『月例会に参加し始めたころは、戸惑いと、焦りと、悲しみの日々でした。一年ぐらいして役員の一員に加えていただき、会員の方々との交流が、より深まりました。そして、いつの間にか、引きこもる子供に少しずつ余裕を持って接することができるようになりました。月例会以外でも会員の皆様と交流できればいいなと思っています。』(平野)
- (*会員の方のコメントは、残念ですが時間的な関係でお願いできませんでした。)

【居場所活動予定】

- 10月 9日(土) 第6回運営委員会 (13:30~16:30)
- 10月 2日(土) (13:30~16:00) ・ **㊟** 23日 → 30日(土) (13:30~16:00)
パソコン教室 (指導 さぬき若者サポステ)
- 10月16日(土) ポパイの会開催(担当 森下さん(相談も可)) (13:30~16:00)
- 10月 2日(土) 松田勝先生 個人カウンセリング (9:00~13:00)

【ポパイの会（若者グループ）から】

昨年9月から始めたPC教室（指導 森下氏：グローバル・シッパスこうべ）も、10月からは、さぬき若者サポステ（指導 岡本氏）のご支援を受け、早1年が過ぎました。PC教室終了後、1時間くらい若者のおしゃべりにもお付き合い下さることもあり、仲間の中で少しずつ自信をつけていってるのが行動にも表れてきています。また10/16相談希望の方は川井までお電話ください。

ポパイの会の若者の相談や買い物などに付き合ってもらったり、訪問等もされていた、徳島のひきこもり体験者のSさんからDVD：首都圏ネットワーク ミドルエイジクライシス『30代 ひきこもりの現実』が届きました。（2010年9月17日（金）NHK総合 12分）詳細はネットで見ることができます。

【9/24（金）第2回ひきこもり対策チーム会議開催】

9月例会で報告させて頂きましたが、去る9月24日（金）県庁に於いて第2回ひきこもり対策チーム会議が開催されました。参加者は「ひきこもり地域支援センター」の概念図に沿った関係機関の担当者で事例3例について検討されました。各関係機関の連携まで結びつけるのは、かなり時間がかかること。訪問支援（精神科医療・社会資源に繋ぐ・日常生活の練習）が共通した検討課題でしたが、3例とも支援内容が全く違うこと。簡単でないこと。当事者が心の病を抱えていても親御さんがどこにも相談に行かれていない場合、まずは親御さんが相談（地域の保健所・県精神保健福祉センターなど）に行かれること。相談を重ねながら親御さんと支援者と一緒に当事者の支援を考えていくようにする。

また、各保健所のひきこもりの相談件数も思ったより少なく、保健所によって、現在訪問をしている保健所もあれば、していない保健所もありました。親御さんが訪問支援を希望される場合も、まずは相談に行かれること。

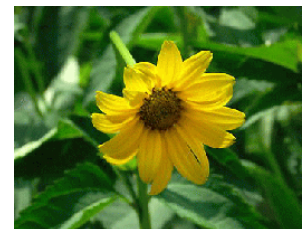
なお、県障害福祉課のホームページの相談・支援窓口から「ひきこもり支援状況一覧」（平成22年9月1日現在）が検索できます。http://www.pref.kagawa.jp/shogaihukushi/fukushi_joho-hp/2.html

○「子ども・若者育成支援推進法」 <http://www8.cao.go.jp/youth/index.html>

○「ひきこもり地域支援センター」 <http://www.mhlw.go.jp/bunya/seikatsuhogo/hikikomori.html>

○「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」

www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000006i6f.html



【前回の月例会（9月26日）より】注 一部 概略

研修報告『アウトリーチについて』 講師 さぬき若者サポートステーション

キャリアコンサルタント 岡本 隆志 氏

現在さぬき若者サポートステーションで、キャリアコンサルタントとして若者と携わりながらカウンセリングし、また職業訓練のなかで、パソコンの講師及び、就労支援などを行っています。業務での経験、先日内閣府の一週間研修がありましたので、そのことも含めてお話ししたいと思います。

研修内容

聴く姿勢づくり

- 聴くほうがリラックスしているか
- 相手に体が向いているか
- 意見を言おうとしていないか（まずは聴くことが大事）
呼吸のテンポが共有されているか（相手のテンポが速い時は返答はゆっくりと）

カウンセリングの基礎

- カウンセリングでおこっていることは、できるだけ言語化する（表情やしぐさを良く観て本当はどうなのか聞いてみる）
- カウンセラーはクライアントがどういう心理状態にあるか常に評価し、仮説を立て続ける。
仮説は常に更新し続ける

ロジャーズの3条件を常に意識する（受容・共感・自己一致）最初は聞くこと、そして共感、
本当に思っていることを伝える

家庭訪問の考慮する点

- 他の人に見えにくく、密室化しやすい
- 支援者が家庭訪問することで、すべて解決してくれる、という気持ちを家族が抱くことがあり
問題のある活動が生じやすい

*訪問前の相談や準備を丁寧に行う *訪問がゴールではなく支援の始まりであることを確認

訪問前に実施しておくべき準備や支援

- 自分なりの見立てがとれるように（本人や家族の生活、生育歴、相談治療歴）
（毎日どのように送っているか、好きなこと興味があること）できれば複数の家族に聞く
- 訪問することを事前に家族や本人に伝え了解を得る（原則として本人の同意が必要）
- 訪問の目的を家族とともに共有する

*訪問者は本人の立場に立ち発言することを了解してもらう 最初の話のもっていき方は重要

- 時間・場所・服装・同行者の選定

訪問時に実施しておくべき準備や支援

- 本人に会えたときは、自己紹介をして感謝の気持ちを伝える
- 初回はあまり進一的にならないこと、最初は10分位でも充分
- 本人に会えない場合にも援助者がきていることを気にしている ドア越しに声をかける、手紙やメモを置く、など何らかの本人に向けたメッセージを残す あまり長居しない
本人が同席しない家族面接時でも、本人の存在を意識し、本人の立場や気持ちを尊重した発言や態度をとることが大切 時間がかかるのは当たり前、支援を継続していくことを伝える

訪問後に実施しておくべき準備や支援

- 支援目標に沿って訪問の評価を行い次の支援の方向を検討する
- 次回訪問の約束 週1回位のペース
- 家族と連絡を取りながら相談は継続、訪問以外のときは家族の支援、協力が大事になる

アウトリーチ(訪問支援)の関連性

- 相談に入る前にもっとも必要なのは、当事者と支援者の「関係性」と「信頼性」
最初はおなじ目線で、会ってくれてありがとうあなたのことについて考えていきましょうと伝える 関係が中頃につれ適正な距離を保ち最終的には分散、離脱に至るのが望ましい

本人が自立していくこと

- 不適応行動の背景には要因がある 受容、共感、自己一致の必要性
- アウトリーチはその後の支援過程と一体のもの

介入困度と対象者の状態で分類するアウトリーチ

- ひきこもった早い時期に支援ができたらいい
- なるべく孤立せずどこかに所属できるのが望ましい
- 他者と関わりをもつことがキーになる

実際に子供が悩みをかかえたら

- 節度ある受容 (誠意をもって受け止める) (極端な行動を避ける) (タイミングを意識)
- 積極的待ちの姿勢 (環境の中で解決できる問題と向き合う) (保護者や家族だけで抱え込まない) (障害物を取り除いて動き出すときのための準備)
- 信頼できる専門家につなげる 必要に応じて他者につなげる

展開期

- 目標 (本人が相談しやすい雰囲気や環境を整えよう！つながりがキーワード)
 - * 効果的な関係性の築き方
 - * 動き出すためにハードルを徐々に下げる
 - * 中間的トレーニングメニューの提供
 - * 相談を受けた際の姿勢
 - * 問題の改善に向けた支援ネットワークの活用
- 参加することはあくまでも過程である



集結期

- 目標 本質的な自立を目指して関係を調整しよう
 - * 家族関係の修復による安定化
 - * 関係性の再調整 (一人に依存しない為に相談者の分散、移行、離脱)
 - さぬき若者サポートステーションでは支援、指導の後、企業見学や企業実習などに参加することにより、本人の成長や気づきを助言し、不安を訴えた時にも話を聴き助言する

発達障害のある人への就職支援

- いろいろな障害の特性を理解し、得意な分野に目を向けて伸ばすようにする
- 本人、親とも面談した上で専門家に相談することを促すこともある

発達障害のある人への就労支援

- 本人に見合った学習の方法を考慮する
- マイナス面を見ずプラス面を評価する
- 発達障害をオープンにし周囲の理解を進める
- 相談場所を作り、保護者を含めた相談を実施する
- ソーシャルスキルではなくライフスキルを中心とする

次に私が所属している丸亀にあるさぬき若者サポートステーションについて紹介します。
役割としては、若年者を安定的就業に導くために、働く意義の理解を進めることにより就業意欲を

喚起し、職業生活設計とそれを踏まえた職業選択を自己決定できるよう支援

職業の斡旋などではなく自分の力で歩めるように支援するところです。最終的には就職、職業訓練進学等に結び付けていくよう最後まで支援する 相談する場所として下記の場所がありますので皆さんの行きやすい場所をご利用ください。 厚労省の指針により、訪問支援に関しては本年度から高校生を対象として進路・不登校の悩みの相談を受けています。もう一つ電話相談も受け付けています。対象者としてニート・フリーター状態にある義務教育終了後の15歳から40歳未満の者とその家族 現在はさぬきサポステの電話番号{0877-58-1080}で受け付けていますが今後専用の電話番号にかわります。その時にはオリーブの会の川井会長に連絡いたします。

平成22年度 さぬき若者サポートステーション

香川県西部地区活動拠点

相談をご要望の場合は、飛び込みでも可能ですが、状況によってお待ちいただくことがありますので、可能であれば電話予約(0877-58-1080)をしてお越しください。

さぬき若者サポートステーション (丸亀市)	月～土 10:00～18:00
丸亀市役所 (1F相談室)	毎月第2木曜日 10:00～16:00
坂出市 (勤労福祉センター)	毎月第3水曜日 10:00～17:00
飯山市民総合センター	各月第3木曜日 10:00～17:00
栗熊コミュニティセンター	隔月第3木曜日 10:00～17:00
善通寺市 (総合会館4F相談室)	毎月第2水曜日 10:00～16:00
三豊市 (豊中町保健センター2F相談室)	毎月第4水曜日 10:00～17:00
観音寺市 (中央公民館2F会議室)	毎月第1水曜日 10:00～17:00

電話相談窓口

電話で繋がる 働くこと 不登校の悩み 解消へ

相談無料 秘密厳守 0877-58-1080 (仮)

相談日 月曜日 木曜日 (祝日を除く) 時間 午前10:30～12:30 午後13:30～17:00

《ひきこもり回復プログラム 2》

「親父の内省」というテーマでお二人の会員の方にお話いただきました。

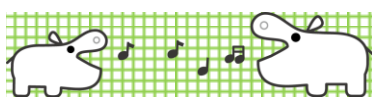
- ◇ 先日息子と瀬戸内芸術祭に行ってきました。最近、働こうという意欲がみられ動こうという状況が見られるようになりました。今日用意した資料(ひきこもりの評価、支援に関するガイドライン)は本人が就労に向けて動こうとしている時に、どんな支援があるか、またどんな経過を経て就労に結びつくかなどの流れが記されています。

我が家では、学校をでてから就職しいくつか仕事は変わりましたが、突然家にひきこもりました。そのなかで本人は専門誌を読んだりして、いろいろな情報を集めていたようです。子供に勧められ、私が「オリーブの会」に関わるようになったのは、花ノ宮の事務所ができる前頃からです。その後新聞で若者自立塾が全国に20ヶ所できたという情報を得て、本人と二人で若者自立塾を見学したりして、その一つに入り卒業しました。そのまま帰らずにお世話になりずっとそこで暮らしています。塾の手伝いをしたりしていましたが、本人が病気になる少し放っていたことに気がつきました。塾長さんも「たまには会いに来て下さい」と

態度が変わってきました。そっと見守るといいながら、親があせっていたことにも気づかされました。最近では週1回電話をしたり、また、年2回は本人に会いに行くよう心がけています。今は公的機関が行っているフィールドパワーに通っています。今後は回復期にあるひきこもりの不安にたいしてどのように手助けできるか、また私も年を重ねてきてライフプランが気になっている。ご意見、また良いお知恵をお聞かせください。

- ◇ 非常に遠回りしたなというのが今の実感ですが、ひきこもりのあらゆる面を体験しました。暴力によつての私の入院、家庭内での破壊行為、警察に相談したこともありました。私達は家を出たこともありましたが、さらに行為は激しくなりました。その頃「オリーブの会」を知りました。また、松田先生のカウンセリングを受ける様になり、その度に親の苦しみを訴えました。先生はやんわりと「子供さんは親御さんよりもっと苦しんでいますよ」と毎回言われました。最初はなかなか納得できなかつたが、そのうち長い時間をかけ私達も代わってきたようで、最近では親子で近くの公園に散歩できるまでになった。転機となったのは松田先生の言葉だった。自分の苦しみに囚われて背後にある子供の苦しみに気が付こうとしなかつた。好転したとはいえ本人は新たな悩みが始まっている。親自身もこれからのことを考えると不安である。現在の心境は親子関係の修復というより、新たな出発という気持ちでむかいあっています。

(文責 石田)



映画「アンダンテ～稲の旋律～」上映

去る4月24・25日アルファあなぶきホールにおいて上映されました映画「アンダンテ～稲の旋律～」が、今回 志度・三木町・東かがわ市で上映されることになりました。当日 ポレポレ農園代表の松田勝先生による10分間のミニ講演「子育て論」も予定されています。(チラシ同封) まだご覧になっていない方は、この機会に是非お誘いあわせのうえお出かけください。

とき	会場	開場	講演	上映
☆10月30日(土)	志度音楽ホール	13:40	14:00	14:10～15:55
☆11月27日(土)	三木文化プラザ小ホール		同上	
☆12月11日(土)	東かがわ市交流プラザ		同上	

引きこもり「東京大会」のご案内

第六回・全国引きこもり家族会～支援者代表交流・研修会：全代研 東京大会

2010 11/13(土) 14(日) [会場] 財団法人 日本教育会館 (東京都千代田区一ツ橋)

11/13 (土)

大会テーマ

引きこもり長期高年齢化へは総合福祉法 (仮題) の適用を!

副題：未受診・治療中断の“仲間”も救おう!

大会基調講演テーマ 「新ガイドラインの目指す意義」

講師：齋藤 万比古 (国立国際医療センター国府台病院第二病棟部長)

シンポジウム 「国の明確な方針を踏まえ、引きこもりの抜本的対策とは？」

コーディネーター：中垣内 正和 (引きこもり外来精神科医師)

コメンテーター：齋藤 万比古 (国立国際医療センター国府台 病院第二病棟部長)

パネリスト：西田 淳志 (東京都精神医学総合研究所医師)

境 泉洋 (徳島大学准教授)

初鹿 明博 (衆議院議員、厚生労働委員)

11/14 (日)

全体会討議

- ・ 「障がい者制度への加入は何故必須か？」
- ・ 「引きこもり大変革と今後のKHJ 家族会の 役割と本部人事改選」

分科会討議/ 研修会

第1 分科会 (ホール) ...保健施策 「心の健康政策構想会議の実現に向けて」

第2 分科会 (第1 会議室A) ...啓蒙 「新引きこもりガイドラインはここが大きな意義」

第3 分科会 (第1 会議室B)・ 家族会の機能 「家族会は何故必須なのか」

第4 分科会 (第1 会議室C) 支援 「親への学習会の効果と全国的導入」とCRAFT

第5 分科会 (第1 会議室D) ...若者の部屋 「若者の生きにくさを訴えるーIII」

以上 (旅立ちから抜粋掲載)